



川崎近海汽船株式会社
KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

川崎近海汽船株式会社

川崎汽船を親会社とし、同社の国内での内航営業権が譲渡されて設立された海運会社。近海、内航、フェリー、オフショア支援船事業を4つの柱として事業展開している。

本社：東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
設立：1966年5月1日
資本金：23億6,865万円
従業員数：223名（2014年6月現在）
URL：https://www.kawakin.co.jp/

（取材日：2015年10月）

POINT

業務の変更やユーザからのリクエストに迅速に対応できる情報活用基盤を構築

1

異なるシステム間のデータ連携により、データの見える化を実現

2

ユーザ自身がデータを情報として活用できる環境を整備

3



基幹システムのリプレースを機に 情報活用基盤を整備 WebFOCUSとDataSpiderで スピーディな情報分析に活用

川崎汽船のグループ会社である川崎近海汽船では、基幹システムのリプレースに合わせて帳票システムも刷新するために、WebFOCUSとDataSpider Servista（以下、DataSpider）を活用した情報活用基盤を構築しました。基幹システムからのデータ抽出が容易になった結果、荷主や品目別の貨物情報を船舶ごとにモニタリングして、関係部門が迅速に必要な情報にアクセスできる環境を実現しています。

課題

対策

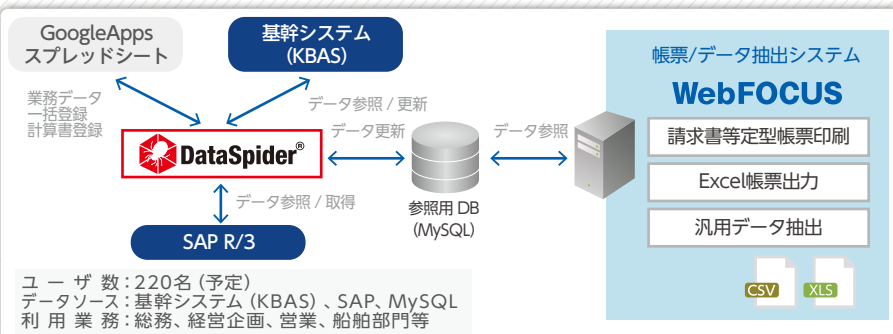
効果

- 固定帳票中心のシステム構成だったため、様々な変化に柔軟に対応できていなかった
- 航路変更などに対応するためのシステム改修に1人月以上の工数がかかっていた
- 帳票の改修が大きな負荷となっており、タイムリーな情報展開ができていなかった

- WebFOCUSを活用し、業務の変更にも迅速かつ柔軟に対応できるシステムを構築
- WebFOCUSのExcelテンプレート連携機能を使い、自由にデータを活用する環境を整備し、ユーザの利便性を向上
- DataSpiderを活用し、基幹システムとSAP間のデータ連携を実現

- ユーザからのリクエストに迅速に対応できる自由度の高い情報活用基盤を構築
- マスターに追加された項目が自動的にレポートに反映。開発工数は従来の半分に削減
- 事業ごとに異なるシステム間のデータ連携が可能になり、複数のサービスを利用している顧客情報の一元管理が実現し、業務効率が大幅に向上

システム概要



WebFOCUS、DataSpider Servista

固定帳票中心の仕組みが柔軟な業務対応の妨げに

川崎近海汽船は、国際物流の近海部門、国内の複合一貫輸送に貢献する内航部門、「シルバーフェリー」で知られるフェリー部門、海洋資源開発設備などに関わるオフショアの4事業を柱としています。最近では、岩手県宮古港と北海道室蘭港を結ぶ新フェリー航路や、静岡県清水港と大分県大分港を結ぶ航路の開設など、着々と事業を拡大しています。

同社では、2015年4月にカットオーバーした基幹システム(KBAS(Kawasaki Business Application System:以下、KBAS))のリプレースに合わせて、情報活用の基盤となる帳票システムも全面的に刷新することにしました。その経緯を情報システム室の安原常之氏は次のように説明します。

安原氏 KBASは2001年頃にスクラッチ開発したもので、固定帳票しか出力できませんでした。固定帳票の情報だけでは不十分な場合があり、部門の担当者が自分でレポートを作成しようとすると、固定帳票を見ながらExcel



安原常之氏

で数時間かけて加工をする必要があるなど、作業に大変な工数がかかっていました。

特に、何年かに一度発生する航路変更に応じて、売上などの集計結果を異なる角度から見たいという要望が関連部署から頻繁に上がっていました。しかし、それに対応して帳票を修正すると、システム改修に多くの時間と費用がかかります。システム室の室崎容子氏も次のように語ります。

室崎氏 システムを改修するにも、元の作り手がいなくなっている場合はプログラム自体の解析から始めたりと、大掛かりな作業になっていました。また、開発時のコストも担当者のスキルに左右されていた。



室崎容子氏

基幹システムのリプレースの契機となったのは、Windows Server 2003のサポート終了でした。同社では、2015年4月の稼働に向けて基幹システムのリプレースを進めており、それに合わせて帳票システムも全面的に刷新することで、業務の変更に即座に対応し、スピーディな情報展開ができる帳票系システムを目指しました。

数多くの実績と信頼、優れたインターフェースを高く評価

2014年4月に新帳票システムの刷新プロジェクトを開始。9月にWebFOCUSとデータ連携ツールのDataSpiderを組み合わせた「情報活用ソリューション」の採用を決定しました。製品選定は今後の情報活用の基盤ともなるものだけに、機能や使い勝手に加えて、信頼性を重視しました。情報システム室長の落合賢昭氏は、次のようにポイントを語ります。

落合氏 WebFOCUSについては、親会社の川崎汽船がWebFOCUSの前身であるメインフレーム版から長年使用してきた実績と信頼があります。簡単な操作で開発できる生産性の高さと、大規模での利用が可能で高いスケラビリティを高く評価しました。また、WindowsとLinuxに対応しており、従来から使用していた帳票なども確実に継承し、新しい環境でも帳票の自動生成/出力できる点もポイントでした。他社の提案とも比較しましたが、リアルタイムデータの取得に関しても優位性がありました。加えて、DataSpiderのAPIが、当社の既存システムやGoogle Appsのインターフェースに対応していることも大きかったですね。



落合賢昭氏

10月から12月にかけて結合テストを実施し、翌年1月から3月にユーザ検証を進めました。システム仕様についてはシステム室が決定し、川崎汽船のIT関連会社であるケイライン ビジネス システムズ(以下、KBS)が、仕様の検証を担当しました。KBSの福島晃氏は次のように評価します。

福島氏 特に工夫したのは書式設定です。帳票とExcelテンプレートとをリンクさせる仕組みを組み入れたり、基幹システムからのデータ抽出やデータ加工に使用するExcelへの出力がスムーズに行えるようにもしました。WebFOCUSであれば、将来的には帳票の内製化も可能と判断しました。



福島晃氏

ユーザからのリクエストに迅速かつ柔軟に対応 担当者の作業負荷も大幅に軽減

新帳票システムは、予定通り2015年4月にカッ

トオーバーしました。大命題である業務の変更への迅速な対応は、すでに大きな成果が出ています。固定帳票に縛られなくなり、自由度は格段に向上。項目の追加などの修正要求にも、従来の半分以上の工数で対応できるようになりました。

安原氏 管理者が変わると、売上などの集計方法を変更したいという要望が出ます。すでに、積荷プラン、予算などの帳票を新たに追加していますが、様々な要望にも迅速に対応できる環境が整ったことは大きな成果です。いずれは、現場の担当者自身が必要なデータを抽出できるようにしたいと考えています。

落合氏 今回のシステムでは航路などが追加されてもマスターに情報を入力するだけで帳票に自動的に反映され、システム開発作業が不要になりました。

フェリー、内航、近海など事業単位別にシステムが存在しており、複数のサービスを利用する顧客も少なくありません。従来は各システムで請求書が発行されていたため、担当者が請求書を持ち寄り、合算してから顧客に通知していました。そのような集計もDataSpiderを活用することで、各システムやSAP内の経理データとの連携が可能となり、顧客ごとのデータ集計が非常に容易になりました。

データ分析と可視化を促進し、モバイル環境でもタイムリーな情報活用の実現へ

今後は、WebFOCUSの自由検索機能を活用して現場の担当者が必要なデータを自ら入手してタイムリーに活用できることを目指しています。

室崎氏 実際の売上データと予算とを比較して達成率を見るなど、いわゆるBIとしての活用を本格化させたいです。品目ごと、荷主ごとに年間の推移を一目で確認できるようグラフ化するなど可視化を進めていきたいですね。集計したデータをドリルダウンして、その結果の原因がどこにあるのか、といった分析にも役立てたいですね。

経営層からはタイムリーな情報を即座に次の一手として反映させられるようにすることが求められています。

落合氏 モバイル機器を活用し、社内だけでなく、必要な時にどこからでも最新のデータを参照できるようにしたいです。社員にはタブレットを配布済みなので、外出先でもお客様の要望に応じて最新のデータを提示し、その場で適切な提案ができることを目指しています。